

水 稻 新 品 種 「 ク レ ナ イ モ チ 」 に つ い て

岡田正憲・西山寿・本村弘美・志村英二・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H.,
SHIMURA, E. and KAI, S.
A New Rice Cultivar "KURENAIMOCHI"

かねて配付試作中の水稻西海糯 129号は昭和49年から長崎・香川・愛媛の各県で奨励品種に、福岡県では準奨励品種に採用され、通称名を「クレナイモチ」として普及に移されたので、その育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事したのは筆者等および今井隆典・和佐野喜久生であるが、関係各府県農業試験場・支場・分場・試験地の係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

1. 来歴ならびに育成経過

クレナイモチは、昭和38年に農林省九州農業試験場で

「ホウヨク×祝糯」F₁を母、コシヒカリを父として人工交配を行ない、その後も同場で世代促進法を適用しながら、集団育種法により育成されたものである。昭和45年(F₁₁)より「西海糯 129号」の系統名で関係府県に配付して、地方的適否が確かめられ、昭和49年度(F₁₆)に水稻農林糯233号として登録された。

2. 特性の概要

(1) 形態的特性 「備南糯」に比べ稈長は約10cm短く、穂長もわずかに短い。穂数の多い、やや短稈穂数型の糯品種である。稈はやや細く、芒はほとんど無く、粒着

第 1 表 クレナイモチの一般特性 (九州農試)

| 形 質 | ク レ ナ イ モ チ | | (比) 備 南 糯 | | (比) アカネモチ | |
|---------------------------|----------------|------|------------|------|--------------|------|
| | 標 肥 | 多 肥 | 標 肥 | 多 肥 | 標 肥 | 多 肥 |
| 出 穂 期 (月・日) | 8.31 | 9.1 | 9.4 | 9.5 | 9.4 | 9.5 |
| 稈 長 (cm) | 85 | 87 | 94 | 97 | 68 | 66 |
| 穂 長 (〃) | 18.8 | 19.0 | 20.9 | 20.5 | 18.4 | 18.5 |
| m ² 当り 穂 数 (本) | 352 | 367 | 338 | 358 | 368 | 379 |
| a 当 玄 米 重 (kg) | 53.7 | 57.0 | 53.4 | 52.4 | 53.6 | 53.5 |
| 同 上 収 量 比 (%) | 100 | 108 | 100 | 100 | 102 | 101 |
| 玄 米 千 粒 重 (g) | 21.7 | 21.7 | 23.0 | 22.7 | 21.3 | 20.8 |
| 玄 米 品 質 | 上下 | 上下 | 中中 | 中中 | 中上 | 中上 |
| 食 味 | 良 | | 中 | | 良 | |
| 芒 の 多 少 ・ 長 短 | 無 | | 少 ・ 中 | | 稀 ・ 短 | |
| 稈 先 色 | 紫 褐 | | 白 | | 紫 褐 | |
| 稈 色 | 紫 褐 | | 黄 白 | | 紫 褐 | |
| 脱 粒 性 | やや易 | | 中 | | やや易 | |
| 耐 倒 伏 性 | やや強 | | やや弱 | | 極 強 | |
| 耐 葉 もち 病 | やや弱 | | 弱 | | 弱 | |
| 耐 穂 首 もち 病 | 中 | | 中 | | やや弱 | |
| 耐 白 葉 枯 病 | 強 | | やや弱 | | 強 | |
| 耐 紋 枯 病 | 中 | | やや強 | | 中 | |
| 耐 萎 縮 病 | 弱 | | 弱 | | 弱 | |
| 早 晩 生 型 | 早生の晩 やや短稈穂数 | | 中 生 中 間 | | 中 生 極短稈穂数 | |

注) 標肥は昭44・45・48の3ヵ年平均、多肥は昭44~48の5ヵ年平均値

は中位で、脱粒性はやや易である。ふ先色およびふ色は紫褐色である。玄米の粒形は中形で、粒の大きさは中の小で、乳白色を呈し、品質・食味ともに良い。玄米千粒重は備南糯よりわずかに軽い。止葉は直立し、熟色はかなり良い。

(2) 生態的特性 出穂・成熟期は備南糯より4～5日早く、九州北半では早生の晩に属する。倒伏にはかなり強く、備南糯・ヤシロモチなどにまさる。白葉枯病には強く、いもち病にはやや弱であるが備南糯・アカネモチにややまさる。紋枯病には中位であり、萎縮病には弱い。生産力は糯の早生種としては高く、熟期や草状の点から西日本で広い適応性をもつ。

3. 適地および奨励品種採用県

本品種は、昭和45年から4ヵ年にわたって関係県で地方的適否が検討されたが、北・中九州および四国地方の平地部から中山間部の地力が中庸～肥沃の地帯ですぐれ

た成績を示し、福岡・長崎・香川・愛媛の各県で奨励・準奨励として採用されたほか、熊本・徳島県でも来年度から普及が予定されている。

4. 栽培上の注意

熟期の点で、九州・四国地方では標高400m以上の山間地への導入は不適である。耐倒伏性はかなり強いが、ごく肥沃地での栽培あるいは極端な多肥栽培は避けるべきである。いもち病に対して弱点があるので、常発地への導入は避けるようにし、窒素肥料の偏用や過大な施用をしないことが必要である。萎縮病対策として、媒介虫防除の徹底と極端な早植を避ける必要がある。

5. 命名の由来

「紅糯」を意味し、ふ色が紫褐色で梗種と判別し易い糯品種であることにちなむ。